

アレヴィー／アレヴィーリキの認識と政治

——宗教と文化の間——

佐島 隆

アレヴィーという概念には多様な多くの集団が包摂されており、歴史的变化も見られる。(前回までの本会で報告)アレヴィーという言葉は、アラビア語の同じ意味のアラウィー *alawi* をトルコ語にするとアレヴィー *alevi* であることから、アラウィーとアレヴィーとを混同するなど、研究者に混乱や誤解もあった。

例えば、現在、トルコ共和国のアラウィー(アラブ・アレヴィーあるいはヌサイリーとも言われる)は、トルコ・アレヴィーと同じカテゴリーでくくられることがあるが、イスラームの一分派ヌサイリー派であり、シリアそしてハタイからトルコに來たアラブ人であるにも関わらず、アレヴィーでくくられることがある。その宗教共同体の指導者はシェイフといい、コーランを読むことがある。その系統をアリーそして十二イマームに結びつける。旋舞セマーフや楽器演奏者もなく、トルコ・アレヴィーとは異なる。

クルド語を話す人々のアレヴィー、クルド・アレヴィーもアレヴィーとして考えられる。アシレト *asîret* (父系の親族集団、「部族」に近い)ごとに異なる例が見られ、例えばアシレトの中には、アレヴィーからスンニー・イスラームに変わった例を聞くことがある。ただしアレヴィーの儀礼等の指導者はセイト、セイディ等と言われ、アシレトの社会的指導者とは異なる。

る。その諸集団の中には、イスラームの中に位置づけようとする集団もあれば、近年ハジュベクタシの思想や文化を取り入れようとする集団もある。例えば、アドヤマン県のクルマンチ方言(クルド語)を話すアレヴィー集団の中には、毎年行われるハジ・ベクタシ・ヴェリ記念祭に行き、アンカラのアナドル・アレヴィーの協会支部を作っている。ここには伝統的に保持している儀礼や考え方があがるが、ハジュベクタシの文化を取り入れ、新たなセマーフの方式を取り入れ、ベクタシからと思われる宗教的思想の影響を受けている。ジェム儀礼もクルド語とトルコ語で行い、儀礼を行う場所ジェムエヴィ *cemevi* も、権利として要求するようになった。ここ三十年ぐらいの一つの変化として、アナドル・アレヴィー(トルコ・アレヴィー)の影響が強く見られるようになってきた(同時に「クルド」も表明している)。

「トルコ・アレヴィー」の認識の変化について見てみると、十九―二十世紀にかけて、「アレヴィー」概念は、様々な多様な集団を内包する概念であった。またアレヴィーとベクタシが結びついた、あるいはベクタシの要素の影響を受けている。(このベクタシの要素が強いアレヴィーのことをアナドル・アレヴィーと言うこともある。)一九八〇―九〇年代になると、政府、宗務庁の影響もあり、スンニー化の現象も見られるが、トルコ・アレヴィー(アナドル・アレヴィー)というアレヴィー概念も影響力を持つていく。毎年ハジュベクタシ町で行われるハジ・ベクタシ・ヴェリ記念祭や組織されたアレヴィー関連の諸組織などを拠り所として、さらにはトルコ移民のドイツ等

の西欧から新たにつくられた「トルコ・アレヴィー」が、逆にトルコに影響を与えた。特に一九九三年のスイヴァス事件の影響は大きく、それ以降、アレヴィー／アレヴィーリキはマスコミにも、政治の世界の認識の中でも確固たる位置を占めるようになる。近年の二〇〇九—一〇年にかけてのアレヴィー協議会は政府主導であることもあったが、これまでの動向を見てみると、宗教と文化の間で(そして政治の影響下で)揺れながらも、アレヴィー／アレヴィーリキの認識が変化・変容してきていることを示すものもあった。

「科研費課題「アレヴィー関連諸集団とアレヴィー・エスニシティの生成と展開」(課題番号21401042)(代表者:佐島隆)による成果の一つである。」

グローバル化の中のイスラム

——イスラムの市場価値化をめぐって——

八木久美子

現在、イスラム世界の各地で新しいタイプの説教師が活躍している。ここで焦点を当てるエジプトでは、「新しい説教師」、「モダンな説教師」などと呼ばれているが、その理由は、スタイルの新しさ以上に、社会的にウラマーと認知されない人物がイスラムを語るという現象の新しさにある。彼らはウラマーには語りえないことを語り、イスラム的言説の可能性を広げてきた。しかし見方を変えれば、ひとつの問題が浮上する。彼らの

語りが人々の関心を集めるのは理解できるとしても、ではなぜ、それがイスラム的なものとして流通しているのかという問いである。

この発表では、新しい説教師のなかでも、人材育成や能力開発といった、通常、ビジネス界の関心事項とされる分野、つまり伝統的なイスラムの言説とは最も親和性が低いと思われる分野で活躍している人物の例を取りあげる。彼らが活躍する最大の場はもちろんテレビである。

アムル・ハーレドに関して言うと、彼は新しいタイプの説教師を代表する人物として評価は確立している。そのハーレドが、昨年放送された「改革者たち」という番組で、番組の狙いとして掲げていたのはボランティア活動を成功させるための技術の伝授であった。若者たちがチームで番組に参加し、限られた時間と資金を使って、孤児院での奉仕など、与えられたテーマをいかに効率よく成し遂げるかが競われた。勝敗を決める上で重視されたのが、作業効率、計画性などきわめて実務的な事柄であったことは重要である。

イブラーヒーム・アル・ファイキーは、人材育成、能力開発のコンサルタントであるが、彼が「成功の道(方法)」という番組で語るのには、ビジネス界で成功するための具体的なノウハウ以外のなものでもない。それにも拘わらず、この番組が宗教的な番組と受け取られているのは、これがイスラムを専門とするチャンネルで放送されていたからである。

九〇年代に衛星放送が開始されたことでチャンネル数が急増し、テレビの世界に市場原理が入り込んだが、それは宗教に特